

一般社団法人 岐阜県臨床検査技師会
平成 27 年度 第 1 回理事会 議事録

開催日時：平成 27 年 4 月 17 日（金）18:30～

出席者：兼子、諏訪、浅野、藤井、帖佐、武藤、森、青木、松浦、高崎、大西、
可児、山岸、和田、多和田、近藤、鈴木敦、臼井、森本、渡辺

欠席者：柴、関、鈴木満、太田

議長：兼子

議事録：藤井

兼子会長より、新年度になり、決算の協力をお願いしますとの要請があった。

【連絡事項】

1 日臨技より

藤井庶務部長より、平成 27 年 1 月 23 日開催の日臨技情勢報告会の報告を行った。

- ・ 2015 年 1 月 22 日現在会員数 54,415 名。
- ・ 総務として、地域ニューリーダーの研修会、事務局の強化と政策調査課を設置、経理・会計・決算処理の切り替えを行う。
- ・ 学術として、第 63 回日本医学検査学会・支部学会の開催、高度先端セミナー・先駆的臨床検査講習会の開催、技術教本の作成を行う。
- ・ 涉外より、検体採取指定講習会はライセンスの変更と心得る、検査説明相談ができる講習会の受講者は会員の 10%では少ないこと。先駆的チーム医療研修会の開催。
- ・ 国際では、IFBLS の開催。
- ・ 法改正では、検体検査は臨床検査技師の業であることを法制化したい。検体検査の精度管理について国会に議案を提出したが廃案となった件は再提出の予定。採血については、病棟採血などが未達で、日臨技の取り組みが足りなかった。宮島会長は、各都道府県で講演を行いたい。検査技師の業務独占は困難で、業務認証を行い業務拡大につなげたい。検査技師も検査室にこもってはられない。これからの検査技師は多能性が必要。

兼子会長より、平成 26 年度 全国幹事連絡会議の報告があった。

- ・ 少子高齢化のため、地域医療体制が変化、臨床検査技師も変化が必要。
- ・ 守りの姿勢では先が見えない、積極的になれば何でもできる時代になったとも言える。
- ・ 国会には政策提言を、国民には普及啓発を行い、臨床検査は臨床検査技師が行うのだと言う事を認めてもらう。県庁や地域に入っていくため、岐阜県の医療整備課に足

を運んでいきたい。

・組織の活性化のため中・高校生向けの進路ガイダンスの実施を、「検査と健康展」で行う。

・IFBLS 学会に英語で発表して欲しい。

・JAMT 技術教本を 3 年間で 31 冊発行を目標とする。

・精度管理事業では、プール血清を活用する。

・業務認証に向けての取り組みを強化する。

・44 年ぶりの業務拡大を目指し、2025 年に向け患者のいる場所の変化に対応するために、検査技師も在宅や訪問看護など、外へ出なければならないようになる。

・検体採取指定講習会の参加費 1 万円は高いのではないかと、何に使われているかの質問に対する回答は、会場費 2 日分、講師料、交通費、実務委員、テキスト、実技備品、終了証書・終了バッジ、消耗備品、ビデオ撮影、普及活動派遣経費、その他で 1 万ぐらいかかるとの説明であった。森本理事より内訳さえしつかり出してもらえば良いとの意見がでた。

・兼子会長より検体採取指定講習会の状況説明があった。日臨技が作成したスライドで行うと、スライドが少なすぎて時間が余る。講師の先生がスライドを足して講義をする方向で進める。早く終了することはできない。との報告があった。

2 中部圏支部

兼子会長より平成 27 年 2 月 21 日に行われた中部圏支部 幹事会議の報告があった。

・日本医学検査学会は 2018 年中部圏支部が担当で、現在愛知、静岡、石川が立候補している。2018 年に日本医学検査学会を愛知が行う場合は、2017 年の中部圏支部学会を愛知に変わり岐阜県に行って欲しいと要請があったが、日本医学検査学会が愛知に決まっても、2017 年の中部圏支部学会も愛知が行う事になったとの説明があった。

・兼子会長より IFBLS の渉外委員を浅野敦理事にお願いしたとの報告があった。

・支部研修会の赤字補填はされないため、できるだけ赤字を出さないようにしてほしいが、赤字の場合は岐臨技から補填あり、との報告があった。

・支部学術奨励賞に大垣市民病院の加納綾野技師が選ばれた。今後も 35 歳以下の技師に賞をとって欲しい。

・第 62 回日本臨床検査医学会学術集会が 11 月 19～22 日に岐阜県長良川国際会議場岐阜都ホテルで開催される。

・中部圏支部検体採取講習会の実務委員の岐阜県担当は 8 月。

・各県学会開催時、政治連盟のブースを併設して欲しいとお願いがあった。前会長の北村 顕氏にお願いする事とした。

3 岐臨技

- ・岐阜県健康福祉部医療整備課長より岐阜県精度管理専門委員推薦の依頼があり、多和田理事にお願いした。
- ・「各部より事業報告が出されています。5月22日の理事会で承認し、総会に提出します。」と会長の発言があった。また、総会当日は、事業報告をパワーポイントで見られるよう作って欲しいとの意見があった。
- ・新生病院の事務局長より、岐阜県だけの単独会員はできないのか？ と問い合わせがあった。それに対し、兼子会長より「できれば日臨技と岐臨技の両方会員になってほしい。どうしても一方だけであれば、日臨技に入会したほうが、保険などのメリットがあるため、岐臨技だけの入会は現在行っていない」との回答があった。
- ・庶務部長の藤井より定時総会の議決権行使書の運用について説明を行った。議案書を岐臨技のホームページに掲載し、各施設に議決権行使書を会員の人数分郵送し、記入後のり付けをし、施設ごとにまとめて返送。それを開封し、承認、承認しない、回答なしを集計する。まとめて郵送で、郵送料節約との会長の意見があった。
- ・次年度計画と予算に関しては理事会で承認を得る。総会で承認を得なくても良い。監査報告も総会の承認はいらぬ。
- ・事業報告と会計報告を5月8日の常務理事会で審議し、5月22日の理事会で承認を得る。
- ・各理事には、理事会の前にメールにて事業計画と予算書を送り、理事会で修正し、ホームページに掲載。
- ・総会の10日前の6月4日までに返信してもらいその後開封する事とした。
- ・兼子会長より、総会出席者に挙手をしてもらい承認人数を数え、書面表決と合わせて報告するとの意見であった。
- ・臼井理事より、選挙においては、すべて書面表決で行われ、総会で報告する形になるとの発言があった。
- ・会計の監査を5月11日に太田監事、牛丸会計士、柴会計部長、兼子会長で行うとの報告があった。渡辺監事にも22日までに監査をお願いした。

4 地区報告

西濃地区

- ・浅野副会長より第53回岐阜権医学検査学会の報告があった。
- ・第53回岐阜県医学検査学会が3月22日に開催され、一般演題19題、教育講演、ランチオンセミナー、市民公開講座を行った。参加者数は、会員119名、賛助会員17名、合計136名。市民公開講座は60名の参加。収入の部、研修会参加費136名分の136,000円、広告費が10社の100,000円、支出の部、製本費194,400円、印刷費85,772円、会場費53,530円、振込手数料216円、消耗品3,167円、講師等謝礼2名66,822円、

講師等旅費交通費 3,341 円、日当 35,000 円、旅費交通費 15,600 円、食卓費 5,589 円、講師お茶菓子 1,436 円、合計 464,873 円となり、236,000 円の赤字となった。以上、承認を得た。

岐阜地区

- ・ 帖佐理事より春季拡大研修会の報告があった。
- ・ 春季拡大研修会を 6 月 14 日（定時総会の前）に開催。
- ・ 検査総合部門で日臨技宮島会長、臨床生理部門で岐阜大学の伊藤先生の講演。ランチョンセミナーは、シスメックスと日本光電。市民公開講座は、パティシエの所浩史氏。市民の方に所プリンを無料配布予定です。閉会の辞は副会長。参加申し込みを 6 月 5 日必着とした。

飛騨地区

- ・ 飛騨地区理事より平成 26 年度第 25 回高山市市民健康まつりが、平成 26 年 10 月 5 日（日）高山市健康センターにて開催されたとの報告があった。
- ・ 臨床検査来場者数 203 名、スタッフは 16 名、実行委員会は 3 回開催、3 回目は反省会を行った。内容は、血管年齢測定、骨密度測定、血管年齢測定のパンフレットを用いた結果説明、骨密度測定結果説明を行った。
- ・ 引き続き、平成 26 年度第 25 回高山市市民健康まつりの決算書の報告があった。
血管年齢測定 フクダ電子 バセラ 2 台 64,800 円、骨密度測定 日本光電 ビーナス α 1 台 21,600 円、人件費 1,000 円 \times 16 名 16,000 円、交通費 16 名 7,200 円、弁当代 1,000 円 \times 16 名 16,000 円、お茶代 1,581 円、合計 127,181 円で承認を求められ、承認された。
- ・ 平成 26 年度岐阜県臨床検査技師会 飛騨地区総会について報告があった。
- ・ 高山健康まつり、秋季拡大研修会、検体採取指定講習会、共用標準範囲値について、今年度計画について総会を行った。秋季拡大研修会の決算書の報告があり、参加者は会員 64 名、非会員 1 名、市民 15 名であった。収入が 156,000 円で支出が 522,738 円で 366,738 円の赤字となり、承認を求められ承認された。

中濃地区

- ・ 高崎理事より中濃地区総会の報告があった。
- ・ 平成 27 年 3 月 19 日に木沢記念病院で行われた。平成 26 年度の活動報告と、平成 27 年事業計画について報告があった。平成 27 年度は、中濃地区担当で秋季拡大研修会、県学会を行うため、秋季拡大研修会の内容を話し合いました。場所は岐阜医療科学大学、テーマは糖尿病で、例年どおりの内容で行っていくとの報告があった。

東濃地区

- ・次回地区総会の報告予定。

5 学術部

近藤学術部長より報告があった。

- ・現時点での学術部門長、副部門長、部門員の一覧があり承認を求められ承認された。
- ・現在岐臨技が使用しているクロネコメール便は4月1日から使えなくなる。信書とは、「特定の受け取人に対し、差出人の意思を表示し、又は事実を通知する文章」のことを言い、信書は郵便局しか扱えない。ちなみに、カタログやビラなどは信書ではない。岐臨技としては、郵メールを使う準備をしているが、今までと同様のサービスを受けられるか不明。今まで2〜3日で配送できた物が、1週間程度かかるのではないかと報告があった。定期便配送物の受付を13日に締め切り、20日発送を予定している。郵メールでも信書は配送できないかもしれないので、その場合は、普通郵便か定形外郵便になる可能性があるとの報告があった。岐臨技会員・賛助会員各位と書いてあると、信書とみなされる可能性があるため、削除するとの報告があった。今後の岐臨技の運用として、佐川急便に郵便局まで運んでもらい、郵メールで送る事を考えている。
- ・新人サポート研修会は今年度より岐臨技の研修会として開催。平成27年5月24日（日）に岐阜医療科学大学で開催。新人サポート研修会の資料は、学術カレンダーからのダウンロード。5月18日以降にダウンロード可能となる。
- ・生物化学分析部門研修会を平成27年7月12日に行い、外部講師として岐阜大学の伊藤先生を予定しており、講師料は4万円で承認を求め、承認された。

6 精度管理事業部

多和田精度管理部長より報告があった。

- ・会員宛に共用基準範囲について案内を出したが2施設から返事が有り、変更はなかなか難しいとの返事があった。
- ・全国的な調査で108施設にメールで問い合わせたが、回答が半分以下であった。
- ・4月1日に基準範囲を変更した施設が9施設あるとの報告があった。
- ・岐阜県では医師会が基準範囲の推奨を5月に、各施設長あてに出すとの報告があった。精度管理部長としては、医師会が共用基準範囲を積極的に推奨するのであれば、それに乗っていきたい、基準範囲を統一した方が患者のためになるとの意見があり、岐臨技としても共用基準範囲を推奨する。
- ・平成27年度の岐臨技の精度管理は、既にJAMTQCに登録をしてある。
- ・請求書は各施設がJAMTQCから出せるように進めている。今年も九州より精度管理用プール血清の資料を購入するようにした。

- ・5月中に責任者宛に岐臨技精度管理の案内を行う。
- ・昨年の反省会でクールボックス（一番小さいサイズ）か小さくて詰めづらいとの意見があったが、少し大きくすると値段がけっこう上がるため、何か問題があれば、大きくするがこのままで行きたいとの意見があった。会長からも何もなければこれでお願ひしますとの発言があった。

7 組織調査部

白井組織調査部長より報告があった。

- ・「検査と健康展」の進捗状況の説明があり、3月26日の部門長会議にて趣旨とタイムスケジュールを説明し、内容の検討と協力要請をし、各部門の実務者選任を要請した。
- ・開催日は平成27年11月29日、場所は大垣市のアクアホール、対象者は高校生、中学生、小学生とし、大人は健康チェックできる体制をとる。参加費は無料、来場者数は最低100名を予定。実務者は30名を予定し、内容は研究部門に任せる。
- ・健康チェック、健康相談なども行う。日臨技から50万円助成あり。事業内容によっては、届出が必要になるため、保健所と相談しながら行って行くとの報告があった。
- ・事業内容は、健康チェックとして血管年齢、頸動脈、骨密度、体脂肪を行う。
- ・検査の仕事に関しては検査技師の職業紹介、実地体験として血液や病理の鏡検、超音波を用いた体験などを行いたい。チーム医療、医療安全、院内感染などもどうかという提案をしている。他県を参考にし、血液センター、検査技師学校紹介なども行う。
- ・今後進捗状況については、メール、ホームページなどを活用し、常に目に触れるようにしたいとの報告があった。
- ・教育委員会に打診している。
- ・功労者表彰は3名あり、定時総会に表彰を行うため、出席をお願いした。
- ・永年勤続に関しては、今年が初めてで、50歳以上で25年JAMTSから拾い上げ、該当者は、163名になります。2名の代表者に出席えお依頼した。当日の表彰を定時総会のプログラムに入れることとした。景品は例年と同じ花瓶という案が出た。青木理事が該当者と思われるが、名簿に名前が無いため確認する。

8 広報宣伝部

森本広報宣伝部長より報告があった。

- ・ホームページのリニューアルの案が提示され、内容の案が提示された。
- ・リンク集も提示された。
- ・リニューアルにかかる費用は、費用として、トップページが12万円、岐臨技会報を見やすくするための費用が5万円の見積もりであった。ホームページのリニューアル費と維持費の一部は、バナー広告から捻出するとの報告があった。バナー広告の趣意書を作り、一社月3,000円で、5社を募集する。5社の応募があれば、年間18万円の

収入があるとの説明があった。

- ・現在のホームページではバナー広告は集まらず、リニューアルの必要があるとの広報宣伝部長の意見があった。

- ・趣意書での案内で賛同する企業を募集する。

- ・ホームページのリニューアルの費用は、まずは技師会に立て替えてもらい、広告費が入ったら穴埋めをする。

- ・これらの提案に対して理事メンバーの意見を聞いたところ、浅野副会長よりホームページの維持費は月いくらかかるのかとの質問がでた。森本理事より、月3万6千円かかる返答があった。

- ・多和田理事より予算に盛り込んであるかとの質問があり、なければ今から予算に入ればとの案が出たが、既に予算案が理事会の承認が済んでいるとの会長の返答があった。この件に関して会長より話を進めて欲しいとの発言があり、理事の承認を得た。

- ・バナー広告の募集には平等を図るため、賛助会員の企業へ一斉に趣意書を発送し、先着順に5社を取る事とした。

- ・ブログの機能と、アイボのグループウェアの機能と、携帯サイトの機能はほとんど使われておらず、サーバー容量が減少し料金が安くなるとの報告があり、無くす事で承認を得た。また、学術カレンダーの携帯サイトも無しにする。

- ・ぎふ臨技 のロゴは昔から使われていて愛着があるかもしれないので残したとの報告があったが変更する事とした。

- ・森本理事より、岐臨技が協賛するロシュセミナーが11月か12月に延期になったとの報告があった。

- ・臼井理事よりホームページで規程は見られますかとの質問があった。確認をしますとの返答があった。森本理事よりホームページには名簿を載せる事は、今回は見送りとした。

9 法人対応部

鈴木法人対応部長より報告があった。

- ・今回は定時総会の議事録には不要だが、理事が変わる時の登記しなおす時は、議事録に署名人の印が必要との報告があった。

- ・今後法人対応部をどうするか。現在の定款では理事が20~25名と幅をもたせています。現在理事は22名であるが、法人対応部が無くなって21名になった場合、飛騨地区は人数が少ないため2名になる可能性がある。理事20名は下限いっぱいであり、20名を下回ると臨時総会を開かなければならないなどの問題が出てくるとの報告があった。今後無くすか、別の名前にして残すか、理事会で検討をして欲しいとの発言があった。今後の検討課題にすると会長より発言があった。

10 会計部

柴会計部長がお休みのため、兼子会長より報告があった。

- ・5月11日に会計監査を行うとの報告があった。

11 庶務部

藤井庶務部長より報告があった。

- ・定時総会の議案書の作成のため、事業報告書を出していない部に提出を依頼。
- ・会員名簿を発送したとの報告があった。4月の移動時期に発送したため苦情があったとの報告があった。
- ・定時総会の時の議長やその他の役を決めておくとの意見があった。

議長

兼子 徹



議事録署名人

印

議事録署名人

浪辺新司



印